

---

# 株式会社エージーピー

## 2017年度第3四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

証券コード：9377

2018.1.30

## 企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

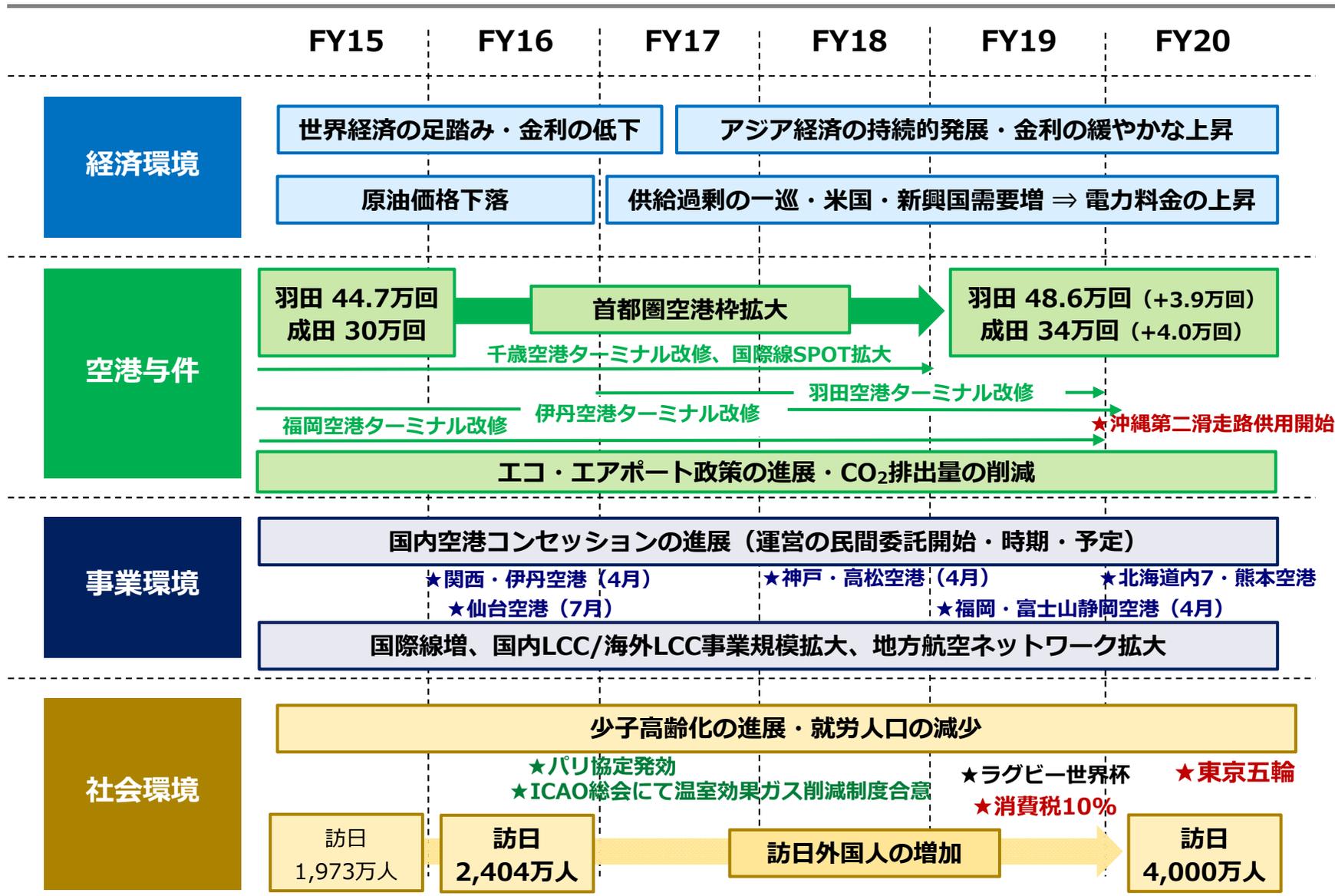
- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

## 長期ビジョン2025(骨子)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

# 当社を取り巻く状況



# 2017年度の位置づけと戦略



現中期経営計画(FY15-19)の中間地点  
更なる生産性向上と営業利益率10%達成に向けた収支改善

## 成長戦略の加速による中期経営計画完遂

収益力の拡大

航空イベントリスク耐性強化

環境社会への貢献

売上高  
営業利益率

空港外売上比率  
自己資本比率

CO<sub>2</sub>排出量

- ▶ 空港外・新規事業の積極的な展開によるトップライン拡大
- ▶ 働き方見直しによる生産性向上  
→ 営業利益率10%の早期達成
- ▶ 海外への事業展開(タイなど)
- ▶ 支社支店を拠点とした営業活動強化

- ▶ 空港外売上比率の更なる拡大
- ▶ 新規事業戦略の必要な見直しによる収支改善
- ▶ 自己資本比率50%以上

- ▶ エコエアポートへの貢献  
→ GPU使用率向上によるCO<sub>2</sub>排出量削減
- ▶ 環境に配慮したビジネスの積極展開

現中期経営計画を確実に達成するための必要な計画見直しを年度内に実施

# 2017年度第3四半期業績概要

# Executive Summary



- FY17第3四半期業績は対前年で増収増益。営業利益は対計画で若干未達となるものの、第4四半期への先送り案件があることから、通期見通しでは概ね計画通り。
- 中期経営計画において10%を目標とした営業利益率は、9.7%まで上昇。FY17通期での目標達成を目指す。
- 自己資本比率は60%を超え健全な財務体質を維持。
- 主力事業である動力事業の事業環境は良好であり、特に、B787、A350などの高電力機材の使用増加と単価改善により、動力売上高は対前年+3.4%。
- 事業計画の進捗が概ね順調であることから、期初計画通り、5円の間配当を実施済。通期の配当予想は据え置き。

# 2017年度第3四半期業績サマリー



## 連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	FY16 3Q実績	FY17 3Q実績	増減額
売上高	8,541	9,264	+723
営業費用	7,896	8,363	+466
営業利益	644	901	+257
営業利益率 (%)	7.5%	9.7%	+2.2pt
経常利益	668	893	+225
四半期純利益 <sup>1</sup>	415	576	+160

## 売上高内訳<sup>2</sup>

(単位：百万円)

	FY16 3Q実績	FY17 3Q実績	増減額
動力事業	3,992	4,126	+134
整備事業	2,079	2,514	+435
施設事業	1,237	1,144	▲92
セキュリティ事業	317	315	▲2
フードシステム	245	295	+50
新規事業	378	497	+118
その他事業	290	370	+79
合計	8,541	9,264	+723

## 連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	FY16 期末	FY17 3Q実績	増減額
総資産	13,196	12,758	▲437
有利子負債残高	1,339	1,056	▲283
自己資本	7,737	8,125	+387
自己資本比率 (%)	58.6%	63.7%	+5.1pt
ROE (%)	10.2%	-	-

第3四半期業績は、対前年で増収増益、営業利益率は改善。  
施設事業の売上高は、別件工事の先送りや受注減等により対前年で減収。

健全な財務体質を堅持 (自己資本比率50%以上)

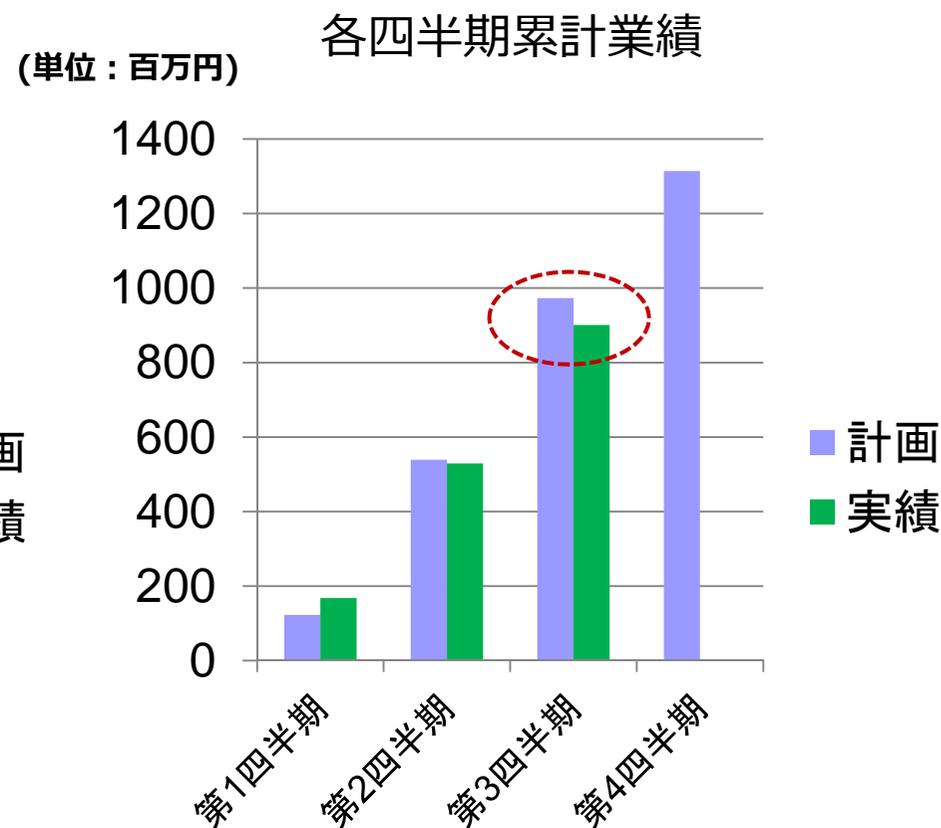
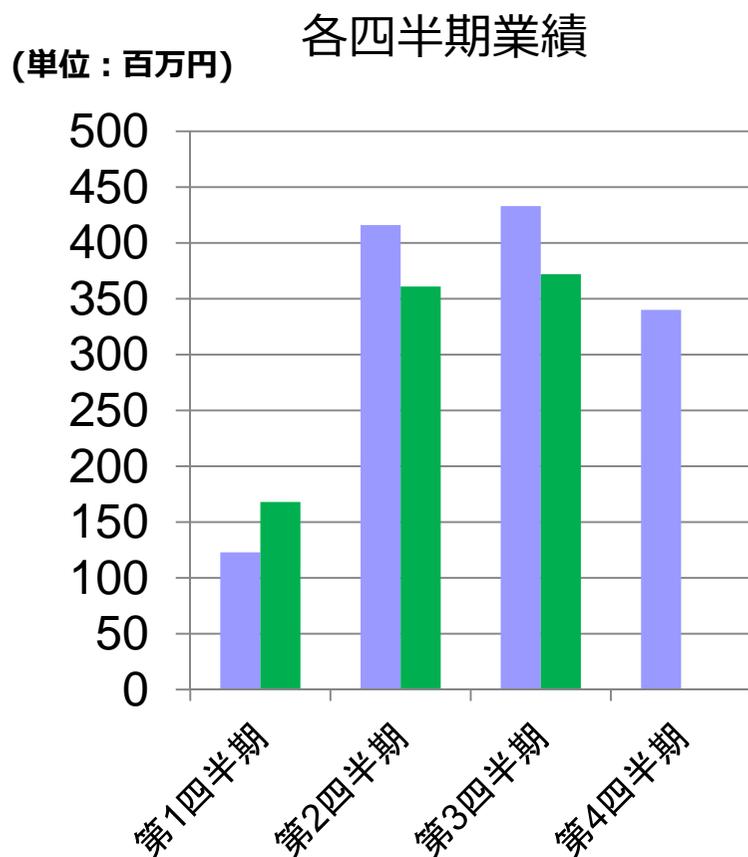
- 1 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益
- 2 売上高の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示  
制度会計では整備事業と施設事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム・ソリューション事業・新規事業等を合わせて付帯事業セグメントとしている

# 四半期営業利益の対計画進捗



第3四半期累計の営業利益901百万円は過去最高の業績。但し、計画対比では若干の未達。

実施時期が先送りになった案件を年度内に確実に取り込むこと等を通して、通期では目標とする営業利益率10%の達成を目指す。

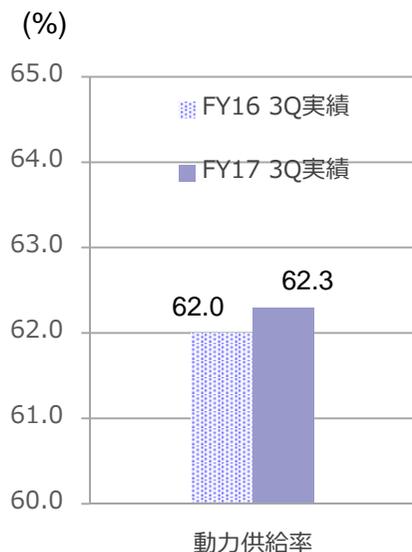


# 主な生産効率性指標の対前年比較



対前年同期比で主な生産性効率指標は改善傾向。  
 今後とも、限られた経営資源の効率的な活用と、「売上最大、費用最小」の取り組みを徹底することで、利益率の高い筋肉質な経営を目指す。

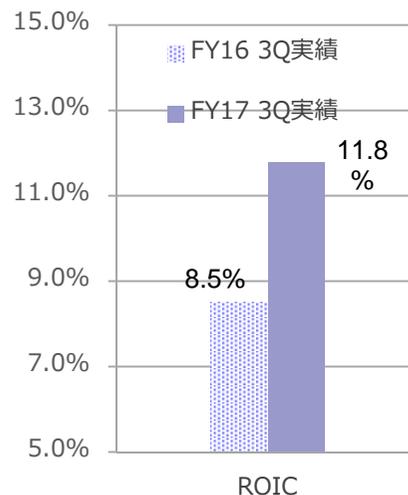
動力供給設備の稼働率



(注) 動力供給率  
 = 当社設備利用回数 ÷ 航空機総駐機回数

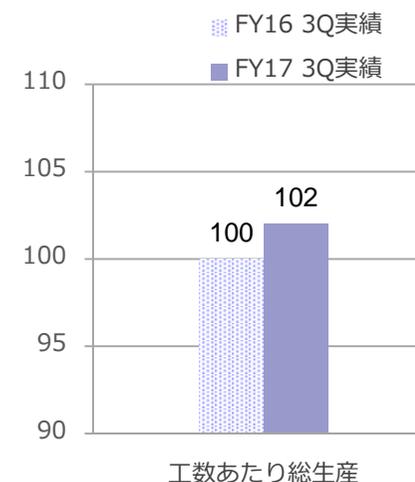
航空機総駐機回数 = 当社設備を利用する総機数 ÷ 総便数

投下資産に対する利益率



(注) ROIC (Return On Invested Capital)  
 = 税引後営業利益 ÷ 正味営業資産  
 = 営業利益 × 0.6 ÷ (株主資本 + 有利子負債)  
 ※ 年率換算値

時間当たりの労働採算性



(注1) AGPグループ会社が独自に展開している事業は除く

(注2) 工数あたり総生産 = 総生産額 ÷ 総工数  
 = (粗利 + 労務費) ÷ 総工数

総生産 = 売上高 - 外部購入価値  
 = (粗利 + 労務費 + 委託役務費 + 業務委託費) [単体]  
 = (粗利 + 労務費) [連結]

※ 総生産額は稼ぎ出した付加価値に相当し、ここから販管費や労務費を控除した残りが利益となる。

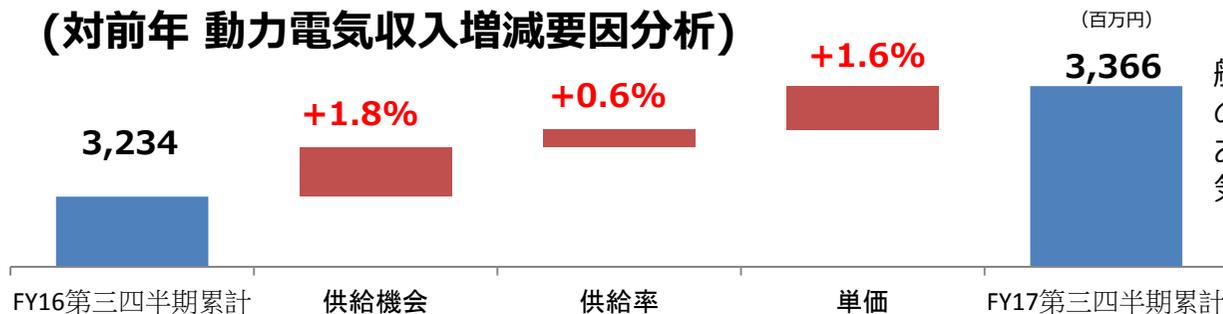
※ FY16実績を基準値(100)として、FY17実績値を算出

# 供給率向上に向けた施策

【動力事業】



## (対前年 動力電気収入増減要因分析)



航空需要の増加に加え、B787、A350等の供給増による時間あたり単価改善や便あたり供給時間の増加が寄与し、動力電気収入は対前年+4.1%となった。

## ■ B787・A350供給率向上に向けた取り組みと実績

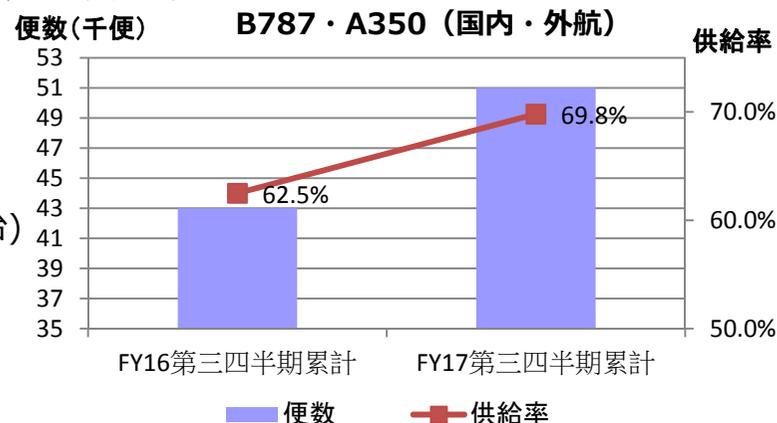
B787・A350への供給機会・供給率は前年対比で上昇。

- ・需要対策として電源設備180kVA化更新増強。

固定設備(計81台)：成田(34台)、羽田(37台)、関西(6台)、伊丹(2台)

福岡(2台)、 ※今後も順次更新予定

移動機材(計26台)：千歳、成田、羽田、伊丹、関西、福岡へ配備済



## ■ LCC供給率向上に向けた取り組みと実績

LCC航空会社への供給機会・供給率は前年対比で上昇。

- ・個別エアラインに提案型営業を展開中。

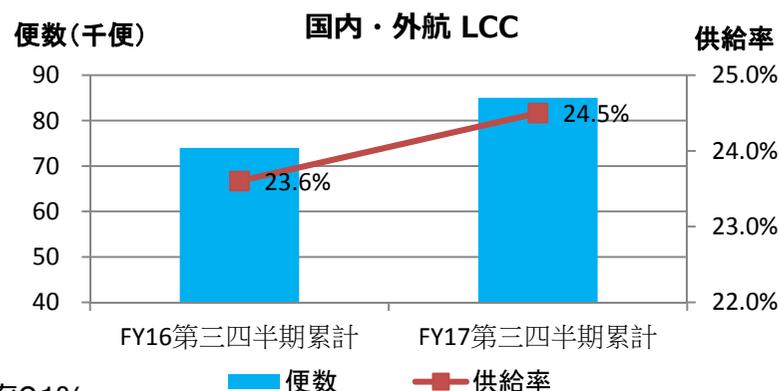
国内社LCC：バニラ・エア（関西）：供給率99%

ジェットスター・ジャパン（成田）：供給率79%

外国社LCC：ノック・スクート（成田）：供給率100%

エアカナダ・ルージュ（関西）：供給率99%

スクート航空（千歳）：供給率91%、（成田）：供給率91%

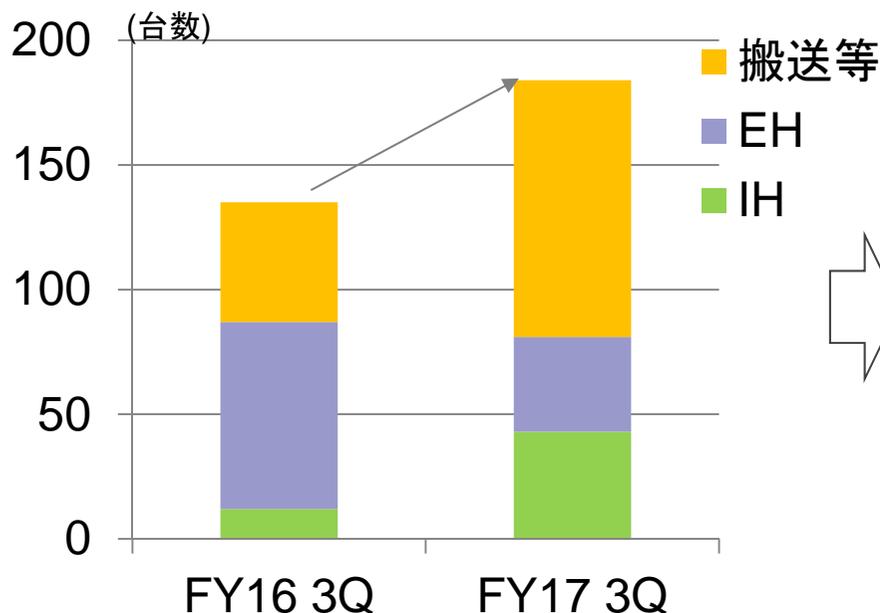


# フードカート販売状況

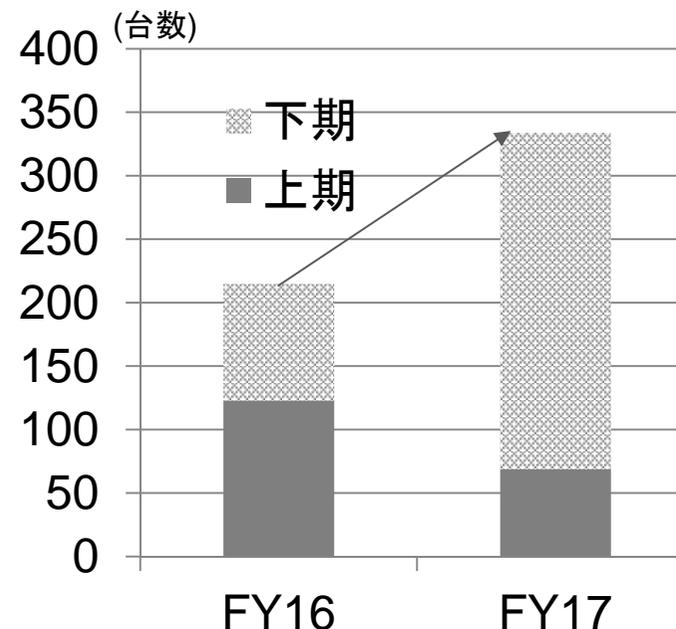
【付帯事業】



第3四半期累計期間での販売台数



通期の販売台数見通し



**FY17第3四半期のフードカート販売台数は、主力の再加熱カート（IHカート）及び搬送等カートが好調で対前年で136%増となった。**

**なお、新規病院に向けたIH再加熱カート（IHカート）の大型案件については、一部第4四半期に納品時期が変更。**

**（10月、30台納品完了、第4四半期、30台他予定）**

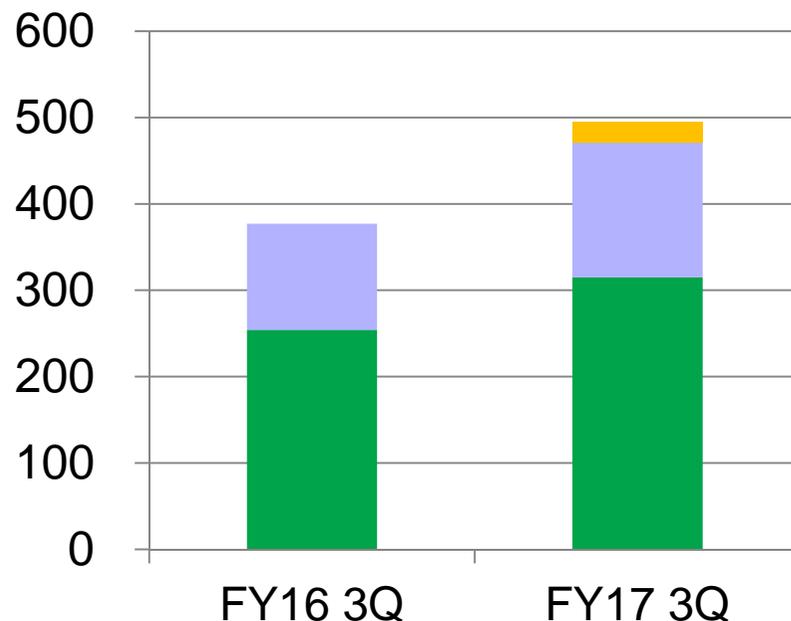
- 1 EH：ヒーター加熱でチルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート
- 2 IH：電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応再加熱カート

# 新規事業売上高

【付帯事業】



(百万円)



- 小売電気事業等
- ビジネスジェット支援事業
- 低カリウム野菜生産・販売事業



低カリウム野菜・生産販売事業は販売店舗拡大、ビジネスジェット支援事業は契約機数の増加、小売電気事業は販売活動開始により、新規事業の売上は増加。  
但し、低カリウム野菜・生産販売事業については、利益ベースでの採算性確保を目指し抜本的な見直しを実施中。

## 安全・安心レタスで笑顔の食卓づくりをお手伝い

野菜の生育に必要なカリウム含有量を一般レタスの20%以下に削減  
 健常者にはおいしさと利便性で、カリウム制限※のある方にも  
 安心して新鮮な生野菜をお召し上がりいただけることから大好評

※重い腎臓疾患をお持ちの患者さんは厳しいカリウム摂取制限を受けています

### ロングライフ化・低カリウム化を実現した プレミアムレタス

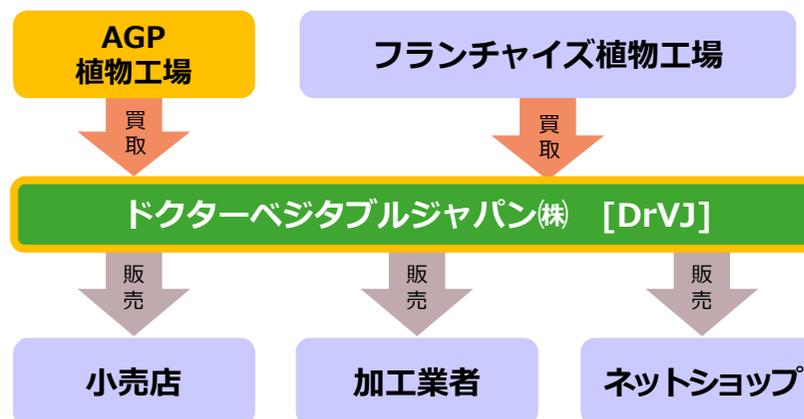
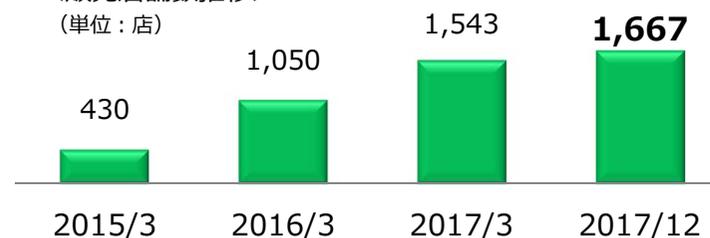
ドクターベジタブルジャパンのレタスを生産している植物工場では、徹底した衛生管理・品質管理により低カリウムレタスを生産しています。その品質管理技術により生産されるレタスは、鮮度・味・食感が長持ちする**ロングライフレタス**として、コンビニエンスストアなどのサンドイッチ素材としても活用されています



低カリウムレタス、低カリウムトマトに関するお問い合わせ  
 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-6-1 日東合同ビル6F  
 フリーダイヤル: 0120-0831-82  
 メール: [info@drvegetable.jp](mailto:info@drvegetable.jp)

<販売店舗数推移>

(単位: 店)



**Dr. Vegetable®** <http://www.drvegetable.jp/>

## 週当たり26,000株出荷 DrVJ社の販売量に合わせて生産を実施

完全閉鎖型&完全人工光型植物工場である横芝光植物工場で生産するレタスの特徴は・・・

### 低カリウム

腎臓病患者の方も安心

### 農薬不使用栽培

苦味・エグミが少なく

### 低生菌数

水洗い不要で鮮度が長持ち



事業内容：低カリウムレタスの生産  
所在地：千葉県山武郡横芝光町  
営業開始：2014年8月  
生産規模：フリルレタス 4,000株/日  
従業員：31名 (パート従業員含む)

首都圏初、成田空港でビジネスジェット専用ハンガーを2015年2月に開設。  
 定期駐機・臨時駐機および、クリーニングサービスも順調に推移。

## 事業内容

- 駐機スペースの提供 (広さ7,655㎡)  
 ※ プライバシーを確保
- 地上ハンドリング業務、機材提供
  - ・ 航空機電源供給サービス
  - ・ クリーニング・サービス (機体内外)
  - ・ トーイング・サービス (機体牽引移動)
  - ・ クルー等送迎サービス
  - ・ 窒素 (N2) 補充サービス
  - ・ 給排水サービス → 準備中
  - ・ 機体整備支援サービス → 準備・検討中
  - ・ その他 (部品管理等) → 準備・検討中

写真：トーイング・サービス



写真：クリーニング・サービス (ブライトワーク)



- ・ 2015年2月1日より  
 駐機スペースの提供ならびに航空機電源供給サービスを開始。
- ・ 2015年8月20日よりトーイング・サービスを開始。
- ・ 2015年9月20日よりクリーニング・サービスを開始。
- ・ 2016年2月1日より  
 クルー等送迎、航空機タイヤ等への窒素(N2)補充サービスを開始。
- ・ 2017年度第3四半期迄の実績  
 トーイングサービス：計28機に対し 202回実施。  
 機体クリーニングサービス：計11機に対し 35回実施。  
 窒素 (N2) 補充サービス：計3機に対し13回実施。

	FY16 3Q	FY17 3Q
定期駐機契約数	4機	5機
臨時(SPOT)駐機機数	11機	19機
クリーニング機数	8機/61回	11機/35回

### 【定期駐機契約数の推移】

FY14	2月～1機	FY17	9月～5機
FY15	12月～2機		
FY16	5月～3機		
	9月～4機		

2016年4月小売電気の全面自由化を機に、動力事業に係る電気調達の効率化を目的としつつ、空港内外の需要家に電力販売を行うため、小売電気事業者の登録を2016年8月に完了し、11月よりAGPによる小売電気の供給を開始。供給エリアは沖縄を除く全国をカバー。付加価値サービスを拡充中。

### \* TOPICS

- 電力販売代理店契約：6社（12月末現在）
- 電気通信事業（インターネット回線、光電話）は、2月販売開始予定。
- ガス小売事業（都市ガス、プロパンガス）は、3月販売開始予定。

### \* 申込状況 (2017年12月末迄)

種別	契約合意件数	見積提出件数	見積依頼件数
高圧	23	200	243
低圧	107	217	298



## 「AGPでんき」

お見積り・お問い合わせは下記までお願いします。

電話：03-3747-0071

email：agpdenki@agpgroup.co.jp

(注) AGPでは発電所を持たず、需給管理も大手新電力のBalancing Groupに入ること、極力リスクを抑えたスキームとしています。

## 第3四半期のTOPICS



- 【10月】 空港技術人材派遣会社「株式会社Aリリース」の営業開始。
- 【11月】 福井県立病院と共同で、食器ごとの食事の美味しさ・仕上がりを損なわずに、食中毒対策として 85度以上の高温で90秒以上再加熱を行うフードカートの運用を開始。
- 【12月】 東京ビックサイトで開催された「エコプロ2017」に昨年に引き続き出展し、GPU活用によるエコエアポートへの貢献を紹介。
- 【12月】 小売電気販売の営業力を強化し、事業の立て直しを図るため、組織改正を行い、電力事業開発部を新設。

# 2017年度 業績予想

# 2017年度業績見通し



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	FY16	FY17 計画	増減額
売上高	12,291	14,000	+1,708
営業費用	11,176	12,700	+1,524
営業利益	1,115	1,300	+184
営業利益率 (%)	9.1%	9.4%	+0.3pt
経常利益	1,132	1,300	+167
当期純利益 <sup>1</sup>	754	770	+15

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	FY16	FY17 計画	増減額
総資産	13,196	14,550	+1,354
有利子負債残高	1,339	1,120	▲219
自己資本	7,737	8,370	+633
自己資本比率 (%)	58.6%	57.5%	▲1.1pt
ROE (%) <sup>2</sup>	10.2%	9.6%	▲0.6pt

期中改善による営業利益率10%、ROE10%の達成を目指す

## 売上高内訳<sup>3</sup>

(単位：百万円)

	FY16	FY17 計画	増減額
動力事業	5,205	5,400	+194
整備事業	3,318	3,700	+381
施設事業	1,962	1,900	▲62
セキュリティ事業	424	450	+25
フードシステム ソリューション事業	410	870	+459
新規事業	511	1,050	+538
その他事業	459	630	+170
合計	12,291	14,000	+1,708

事業環境が良好な空港内既存事業の増収を図りつつ、フードカートや新規事業等、空港外事業を拡大し、売上高140億円を計画。

<sup>1</sup> 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

<sup>2</sup> (当期純利益\*) / (期首・期末平均自己資本)

\* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

<sup>3</sup> 売上高の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示

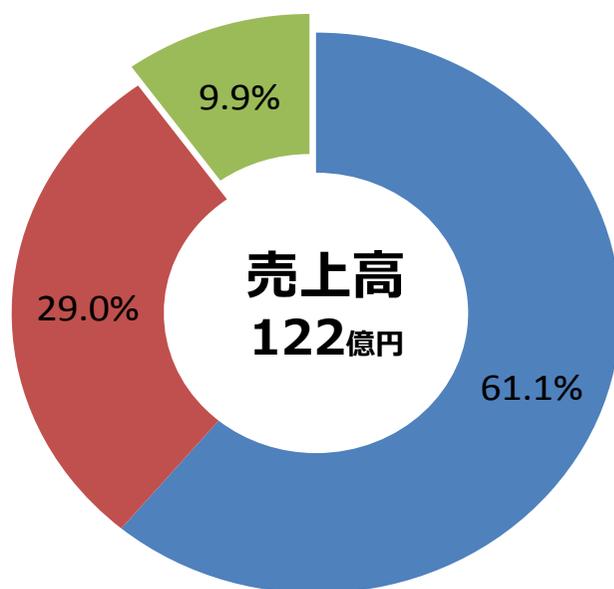
# 2017年度空港外売上割合



フードコートや新規事業など、  
航空会社・空港会社などの既存のお客様以外の売上を拡大

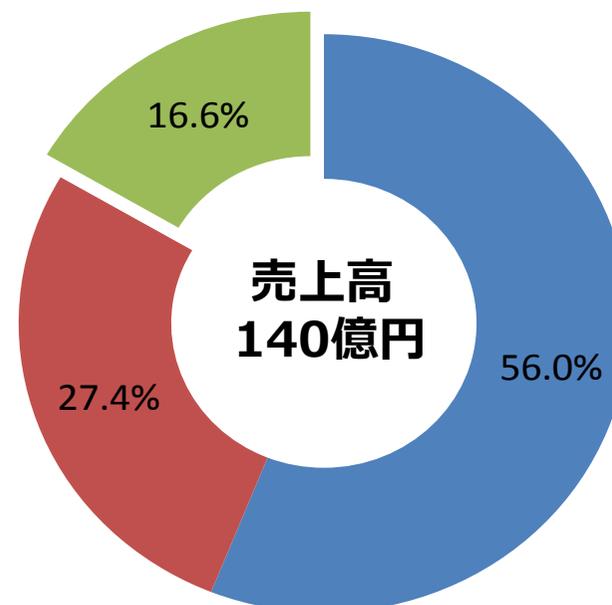
## <FY16売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



## <FY17売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外

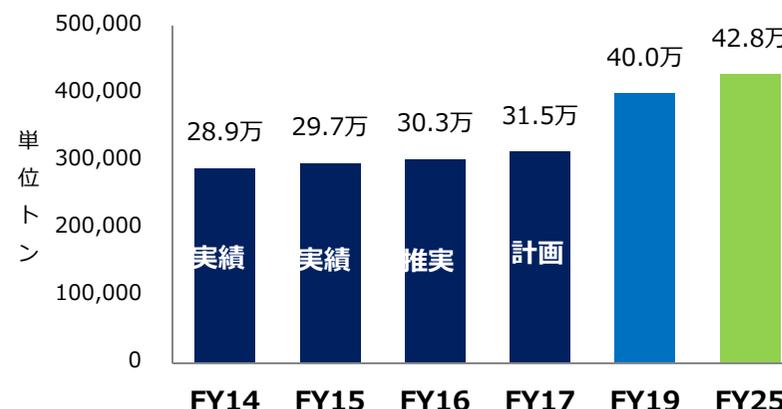
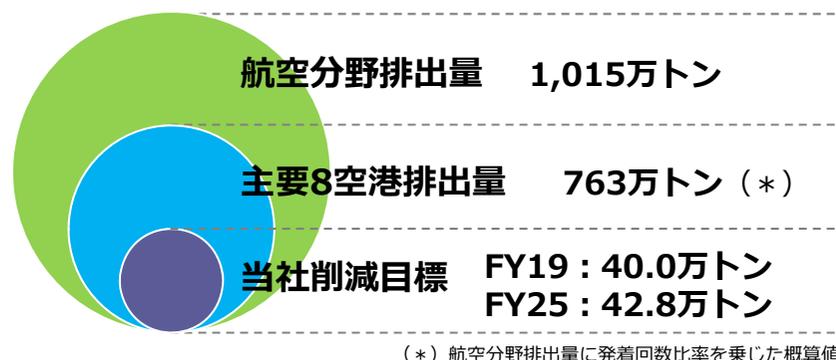


# 環境への取り組みと目標

GPU利用促進により、主要空港のCO<sub>2</sub>排出量の2017年度削減目標は31.5万トン。

【中期期間目標】2019年度までに2014年度対比10.7万トン削減

## <航空分野CO<sub>2</sub>排出量に対する当社削減目標>



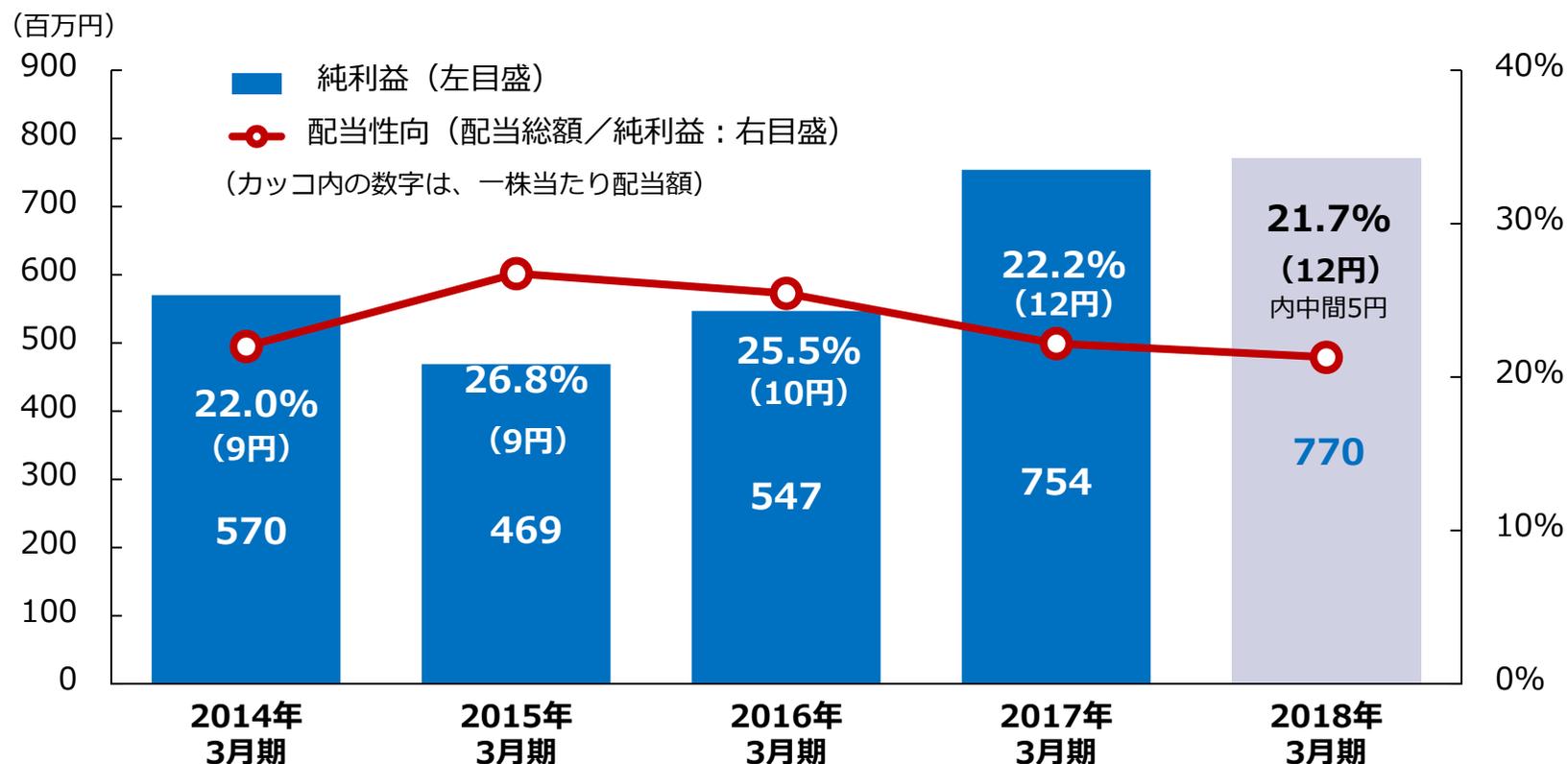
## <全事業分野における環境への取り組み>

<b>動力事業</b>	空港・空港周辺における更なる環境負荷削減策として <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気自動車 (EV) の導入促進と燃料電池自動車 (FCV) の研究</li> <li>● 省エネ機材の促進や再生可能エネルギー等の新技術導入</li> </ul>
<b>整備・施設 ・セキュリティ事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ運転や省エネ部品の提案及び導入、部品交換回数の削減等</li> <li>● CO<sub>2</sub>を削減する太陽光発電の保守業務への参画</li> </ul>
<b>フードシステムソリューション事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ、省スペースが特徴のAGPフードカートの販売</li> </ul>
<b>新規事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 完全閉鎖型工場における無農薬、低生菌、無洗、長持ちの低カリウムレタスの生産</li> </ul>

# 株主還元予定

今期より中間配当を実施することを基本とし、FY17は中間/期末配当を合わせて12円配当を予定。

## ＜純利益及び配当性向の推移＞



# 中期経営計画(FY15-19) 進捗状況

- FY15-19中期経営計画は全体としては概ね順調に進捗
  - ・ 自己資本比率50%以上はFY15で達成
  - ・ ROE10%はFY16で達成
  - ・ 営業利益率10%はFY17で達成すべく現在取り組み中
  - ・ トップラインの更なる拡大は課題
- CO<sub>2</sub>排出量の削減については、パリ協定の発効やICAOにおける温室効果額削減に向けた取り組みに貢献すべく、エコ・エアポートへの参画を通じた目標達成に努める方針。
- 今期は、現中期経営計画(FY15-19)を完遂するための必要な見直しを実施中。2月に発表予定。

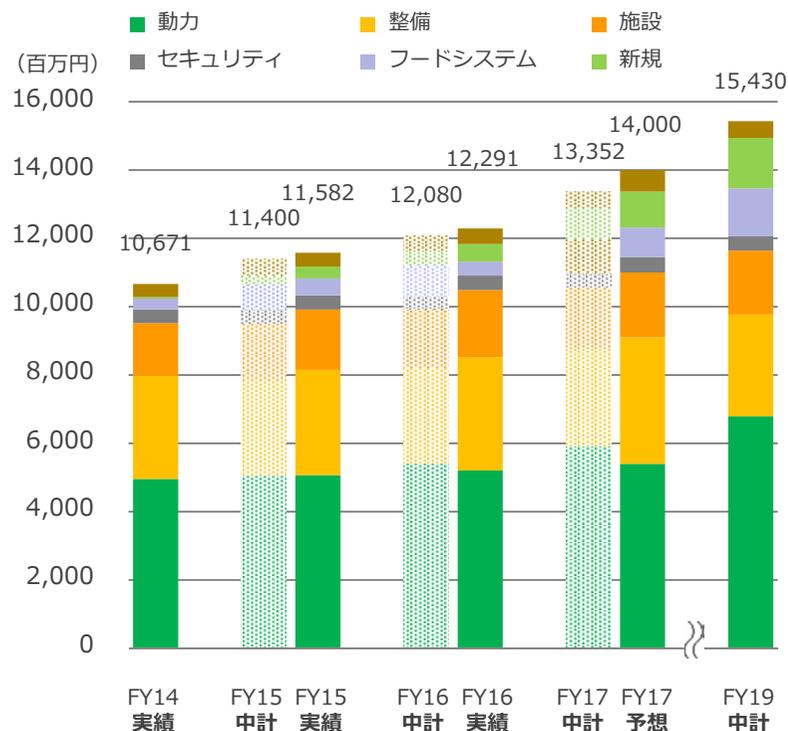
# 中期経営計画進捗状況



FY16は売上高・営業利益・経常利益とも創業以来過去最高。

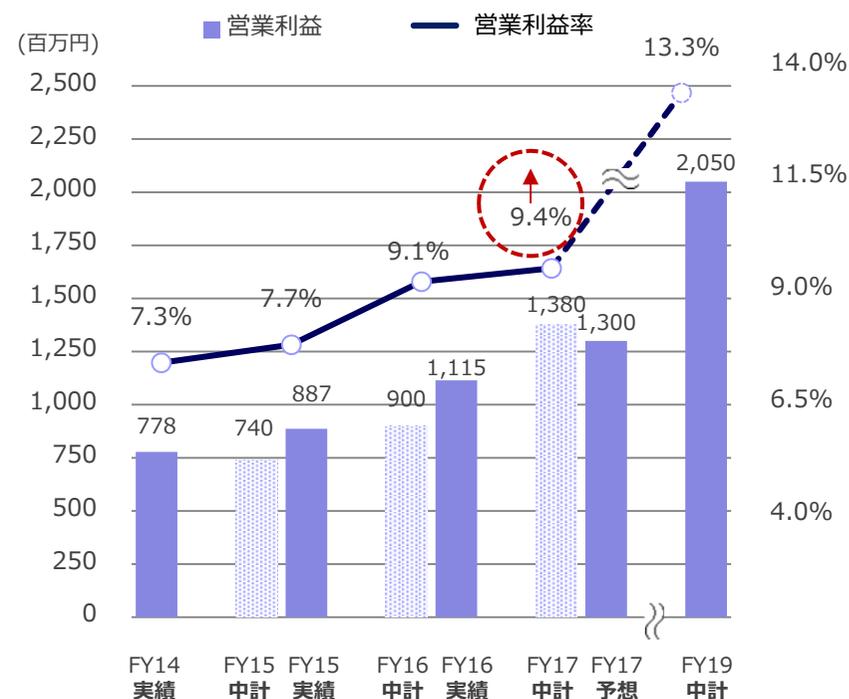
FY17は、FY16を更に上回る業績を計画し、期中の収支改善により、中期経営計画で目標とした営業利益率10%の達成を目指す。

## <売上高>



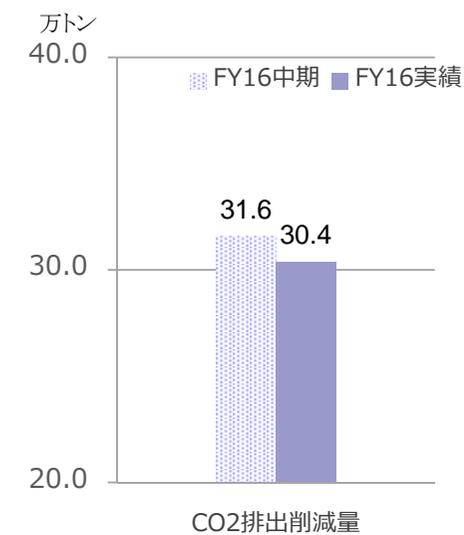
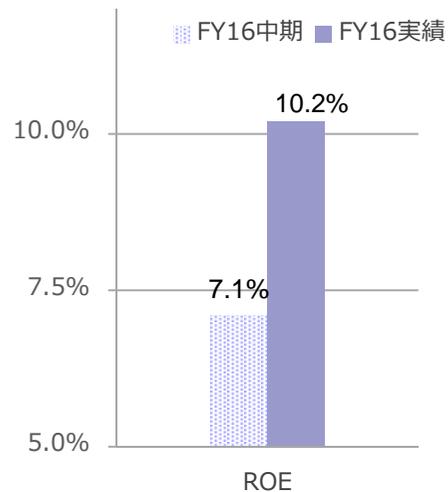
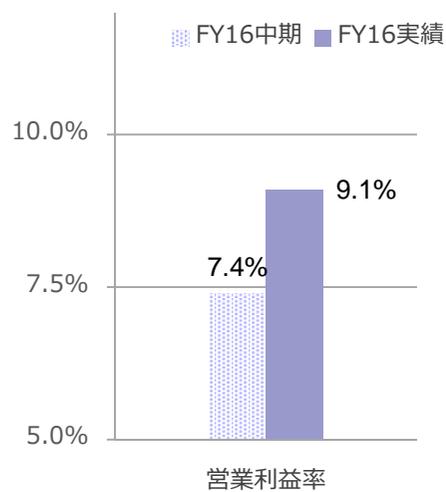
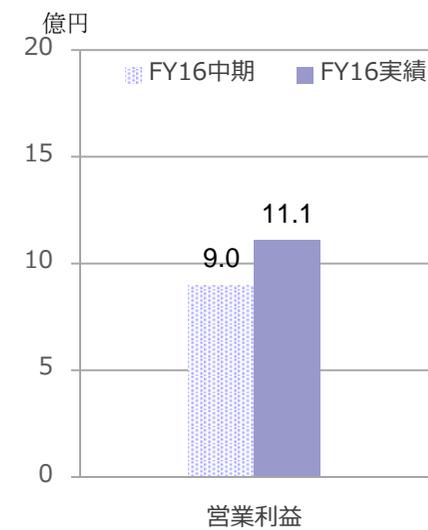
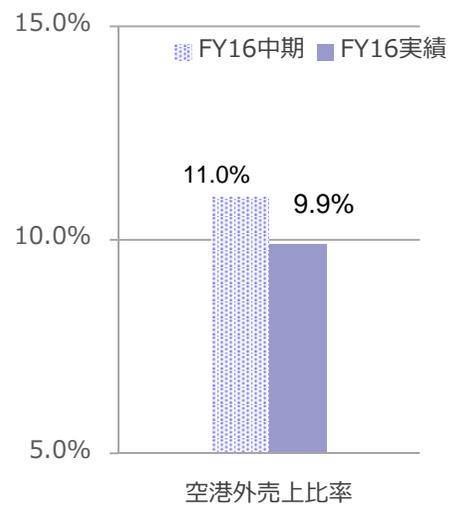
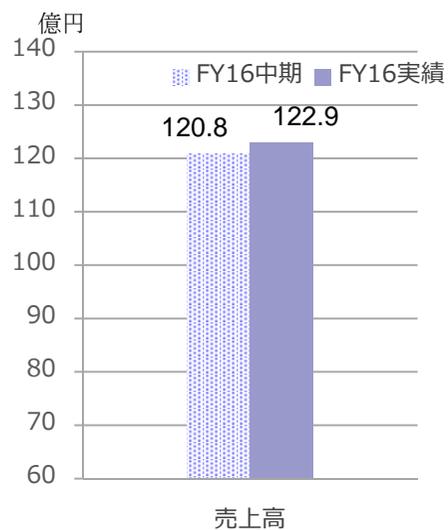
(注) 中計は2015年1月発表の中期経営計画値。

## <利益>



FY16の営業利益率9.1%は実績値、FY17の営業利益率は会社期初予想値 (2017.5.11公表)

# 2016年度時点の中期経営計画値との比較



# グループ経営数値目標



	FY19時点目標値	FY25時点目標値
連結売上高	150億円	200億円
連結営業利益率	10%以上	
自己資本比率	50%以上	
ROE*	10%以上	

\*主として、利益率改善（営業利益率10%以上）を達成することを通して、ROE10%以上を達成する計画

	FY19時点目標値	FY25時点目標値
空港外売上比率	20%	30%
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	40.0万t	42.8万t

# その他

# 技術派遣会社の設立

空港及び空港関連企業を対象とする人材派遣を目的とした「株式会社Aリリース」を、株式会社ジャパン・リリースと合併で設立・営業開始。

名称	株式会社Aリリース
所在地	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル12F
代表者	社長 野村 俊司
主な事業内容	①技術者サービス業務（派遣/紹介） ②グランドハンドリング業務（派遣/紹介） ③パッセンジャーハンドリング業務（派遣/紹介） ④空港送迎サービス業務（派遣/紹介） ⑤航空整備業務（派遣/紹介） ⑥空港内サービス業務（派遣/紹介）
資本金	20,000千円
出資比率	(株)ジャパン・リリース 51%、(株)エージーピー 49%
設立年月日	2017年6月13日
営業開始日	2017年10月1日
その他	(株)ジャパン・リリースは(株)ゼロの100%グループ会社



- 空港インフラ事業ノウハウ  
各空港への提案力  
特殊技術者の育成教育)



- 人材ビジネスノウハウの提供  
ドライバー人材サービス  
リーディングカンパニー



**A RELIEF**

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、世界中の訪日旅行客の増加や、空港運営の民間委託化や空港の拡張計画が進む中、今後ますます不足する空港技術人材、ドライバー人材の教育・育成・派遣を行うことにより、労働不足の解消と空港における多様な働き方の提案を行ってまいります。お問い合わせは下記までお願いします。

**【問い合わせ先】 (株)Aリリース TEL:03-6809-6222 FAX:03-5427-7654**

# タイでの教育訓練事業参画に向けた取り組み



2017年8月4日、当社とタイ国際航空は、タイ国ウタパオ空港の再開発に伴い、航空機の整備や空港施設・設備の運用に必要な技術人材育成のため、2021年に同空港敷地内に訓練センターを設立すべく相互に協力する覚書をバンコクにて締結しました。



タイ国際航空は、同空港に設置予定の航空機整備拠点（MRO）用に航空機整備士等の人材育成を行う計画で、当社は同空港の施設・設備運用等の人材育成を担います。

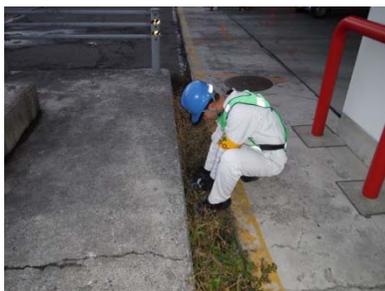
当社は、タイ国際航空と協力し、タイにおける技術者育成事業を支援することで、当社が培った知識や技術を以て、タイの経済政策に貢献するとともに、当社の海外事業展開の拠点構築を目指しています。

# 環境への取り組み 事例紹介



## エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



SPK エプロンクリーン活動  
(国内線スポット)  
2017.11.29



NRT 植樹イベント参加  
(千葉市・イオン主催)  
2017.11.25



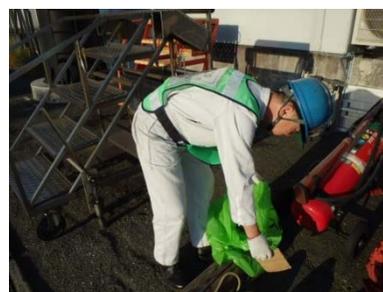
HND 環境美化活動  
(HND FZ 毎月1回×4 SC)



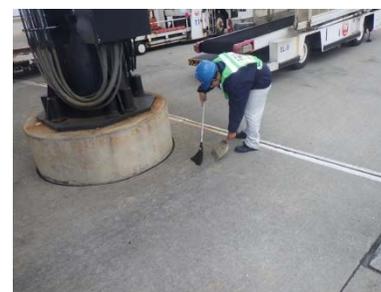
CUB クリーンカップ大会参加  
2017.10.27



KIX MM清掃イベント参加  
2017.12.22 (毎月実施)



FUK エプロン清掃  
2017.11.28



OKA エプロン清掃  
2017.12.10



本社 エコプロ2018出展  
(東京ビッグサイト)  
2017.12.7 ~ 9

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステムソリューション事業、新規事業、その他をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

## お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画・財務部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>